

蚤虱馬の尿する枕もと 芭蕉  
の句が残されている。

六月九日福井県滋賀県境、孫兵衛茶屋にて昼食、茅葺の大きな家であった。当主十三代西村氏が三百年前、芭蕉が当家に滞在中書き残した物があるとて、桜井先生に御覧に入れた。紫のちりめんの風呂敷に包まれたかなり大きな物であった。風呂敷をひろげると、黒塗の縦三十糎、横十五糎、深さ十糎位の箱の蓋をあけられた。中には十五糎程の正方形の和帳があり、淡い緑色の糸で二ヶ所綴られていた。箱の中で数頁ひらいて見せられた。美しい万葉がなで流れる様に書かれてあり、手に取る事は出来ず私は先生の横からちらと拝見した。御主人は静かに箱の蓋を閉じ、「三年程前、県の重要文化財に指定されたので、それ迄は土蔵にしまっていました、今は金庫に入れております」と言って捧げる様に両手で持ち奥へはいつて行

かれた。思わぬ所で貴重な物を拝見して、私の心はときめいた。

西村家の前の広場で、西村家を背景に記念撮影をした。

この山深い孫兵衛茶屋に泊り、芭蕉は門人たちと句会をしたのであろうか、歌仙を巻いたのであるうかと、私はしばらく思ひにふけた。生き長らえて、松島に遊覧し、封人の家に行き、芭蕉の遺墨を拝見し、老いてなお五、六日の旅がかなえられた事に深く感謝している私である。

#### ◆原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩

写真 鈴木往時の思い出

近況などを

必ず原稿用紙に縦書で

四百字詰五枚程度

締切 平成二年十月末日

送先 神戸市中央区海岸通四

新明海ビル太陽鋳工(株)内

『たつみ』編集部宛

## 鈴木商店時代の写真

拝啓、大変御無沙汰申し上げております。

先日は会報「辰巳」五十二号ご送付賜り有り難うございました。実は小生の父は、明治四十五年一月鈴木商店入社、昭和三十九年東京にて八十二才にて亡くなりました。

その後、その辺の詳しい事情が分からず、たまたま「辰巳会」があることを知り御社に照会致しました所、松下専務様より、昭和二年の解散時の名簿に父の名前がある事、関係があったであろう当時の方々にお聞き願いましたが、古い話で、それ以上の事は分かりませんでした。

その後、最近になりました東京の兄の家より古い三枚の写真が出てまいりましたが、何分古いので複製致しましたが、私達の家族のものもわかりませんが、多分鈴木商

店時代のものではないかと想像されます。

一枚は宴会での写真。  
一枚は大勢の方の集合写真(但し、この写真はかなり痛んでおりまして、二列めは修正しております。

古い写真なので無理かとはぞんじますが、御社で何かの折、この写真をお調べ願えればと思い、お送り申し上げます。

勝手なお願いばかりで恐縮でございますが、よろしくお願い申し上げます。

又、退職なさいました松下様にも、序でございましたらよろしくお伝え下さいませ。 敬具

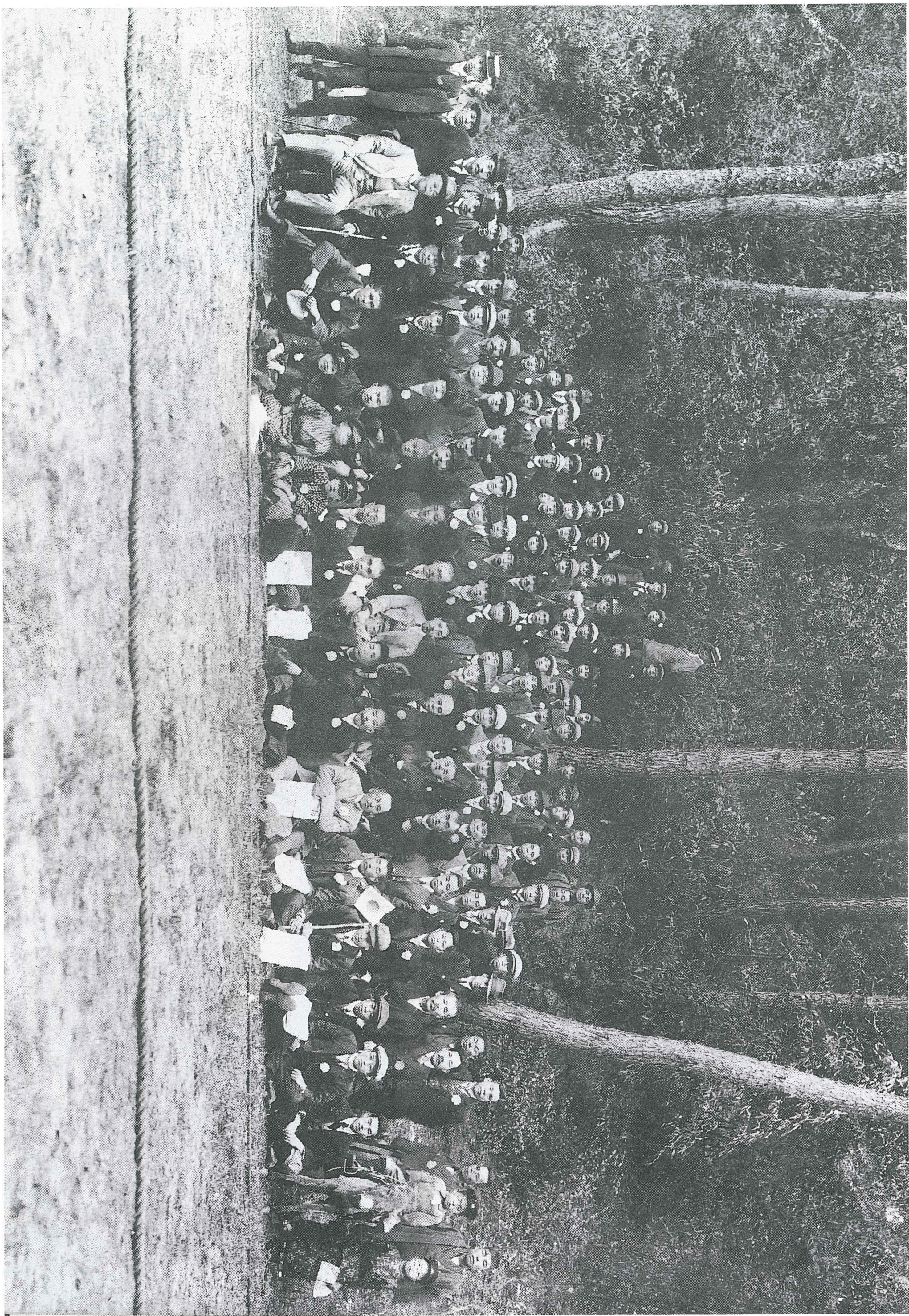
吹田市山田西二の九A三―四〇三

藤野 欽 司

平成二年二月三日







平成二年五月十八日

### 全国大会に参加して

北野 浅美

去る五月十三・十四日総数五〇名（内九州勢五名）予定通り近鉄鳥羽駅集合、直ちに船便にて対岸の答志島へ到着、宿泊先中村屋に入りました。島は周囲三〇キロ、案内通りの風光明媚、宿舎も又気持良く年一度の全国大会の場所として料理又従業員の海女を兼ねし素朴のサービス、共に満点でした。翌朝九時鳥羽に渡り（この頃より雨ポツポツ落ちてくる）貸切バスで一路伊勢市へ十時頃着。有名な赤福へ荷物を預け雨の中をガイド付一同揃って途中五十鈴川に架る宇治橋を渡り鬱蒼たる新緑に囲まれし内宮へ参拝、御神楽の奉納終えて再び宇治橋を戻りきて広場で雨中の記念写真を撮る。あと赤福で昼食後貸切バスにて近鉄の宇治山田駅に到着、そこで

解散恙なく本年度の全国大会を終る。主催者幹事各位の並々ならぬお骨折に対し心から厚く御礼申し上げます。

来年も又参加致し度いと今から張り切っておりますのでよろしくお願い申し上げます。 敬 具

追伸

当初妻も参加の予定でしたが体調を案じて欠席しました。因らざるもそれが縁となり四国支部の小松・竹崎ご両氏と同宿小松氏八十五才（顔の艶八十五才に到底見えぬ）竹崎氏ナント九十六才（明治廿七年生）頭髮黒々と多く其の上自動車運転免許を持たれ（夫人は九十一才で元気の由）あと三十年は生きると痛快なご託言、種々健康話を承りました。

こんな事で今回の旅行は私にとりて最高でした。因に小生八十二才。 再拜

### 全国大会に参加して

高槻市 木下 清三郎

全国大会には大変御世話になりました。毎時もの事乍ら会長様始め幹事の方々の御心配りの程有難く厚く御礼申し上げます。

御蔭様で鳥羽の中村屋、伊勢大神宮と良い経験をさせて頂き、楽しい思い出を作させて頂きました。中村屋での総会、宴会では海の幸を本当に満喫し、女中さん連中の踊りや、唱に心に残る楽しみでした。中でも四国から御出席の竹崎様が九十六才の御高齢とは思えぬ髪も黒々として音声も朗々と乾盃の音頭と御挨拶をされましたのに驚き入りました。

帰りの車中で安並様が、竹崎様の御元気な事は我々の御手本であり目標にさせて頂くと仰しゃって居られましたが、その安並様が九十才とお聞きして、かくも高齢の方々が御元気で活動されて居られる御姿に恐れ入りました次第、然も難波の駅で竹崎様が鞆を肩に掛け人混みの中を独りで階段を昇って行かれるのを見掛け、何か御手助けでもと声を御かけ致しましたが、六時の飛行機で帰ります、バスで空港迄行きます、よく判って居りますと、足取りも軽く元気に人混みの中に消えて行かれたのは、益々感心させられました。御健勝を祈って止みません。内宮での御神楽奉納にも心の清まる思いをいたしました。沢山の思い出を作させて頂きました事を改めて御礼を申し上げます。会長様・幹事の方々の御健康を願いたします。 平成二年五月十八日